



平成 19 年 11 月 14 日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 A C K グ ル ー プ
 代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 廣 谷 彰 彦
 (J A S D A Q ・ コ ー ド 番 号 2 4 9 8)
 問 合 せ 先 取 締 役 長 尾 千 歳
 統 括 管 理 本 部 長
 T E L 0 3 - 6 3 1 1 - 6 6 4 1

業績予想の修正に関するお知らせ

平成 19 年 7 月 30 日付当社「平成 19 年 9 月期 第 3 四半期財務・業績の概況」において発表致しました平成 19 年 9 月期（平成 18 年 10 月 1 日～平成 19 年 9 月 30 日）の業績予想を下記のとおり修正致します。

記

1. 平成 19 年 9 月期連結業績予想の修正（平成 18 年 10 月 1 日～平成 19 年 9 月 30 日）

（単位：百万円、％）

	売 上 高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想（A） （平成 19 年 7 月 30 日発表）	2 2, 5 0 0	6 1 0	6 5 0	2 9 0
今回修正予想（B）	2 2, 7 6 3	5 8 6	6 5 3	6
増減額（B－A）	2 6 3	△ 2 4	3	△ 2 8 4
増減率（％）	1. 2	△ 3. 8	0. 5	△ 9 7. 8
（ご参考）前期実績 （平成 18 年 9 月期）	1 7, 1 6 7	5 0 1	5 1 7	1 0 6

（参考）1 株当たり予想当期純利益(通期) 1 円 18 銭

2. 修正の理由

当連結会計年度に新規に連結子会社となった大成基礎設計(株)、吉井システムリサーチ(株)の売上高が予想を上回ったことに加え、(株)オリエンタルコンサルタンツにおいても引き続き拡大するプロポーザル方式の受注が大幅に増加したことで、売上高は計画を上回り 227 億 63 百万円となりました。利益面では、経営の基盤整備期と位置づけ技術競争力を継続して強化するため、積極的に投資している人材育成、技術開発等への費用が計画を上回ったほか、新規分野における一部業務で粗利益率が低下し、営業利益率が低下致しましたが、営業利益は 5 億 86 百万円、経常利益は 6 億 53 百万円となり、ほぼ予想どおりの水準に至りました。

当期純利益においては、平成 19 年 3 月 29 日付で公表された「連結財務諸表における税効果会計に関する実務指針」の改正により、過年度から同指針公表日以前において連結会社間で売買した子

会社株式売却益に係る繰延税金資産を取り崩し、法人税等調整額に 2 億 69 百万円計上したため、当期純利益は 6 百万円となりました。業績予想公表時には、同実務指針において容認されている翌連結会計年度からの適用とする予定でありましたが、本日開催の決算短信承認取締役会において、財務健全性の観点から当連結会計年度からの適用を決定致しました。従いまして、翌連結会計年度においては、同指針改正による影響はありません。

以 上